

## 新学期に向けて一新評価基準での評価

新緑が目まぶしい季節となりました。寒暖差はあるものの過ごしやすい毎日となり、塾生諸君は勉強に運動に張り切っていることと思います。今月中旬には第一回テストが行われますので、3月（中1は2月）から頑張ってきた成果が出せるよう、しっかりと準備をして臨んでほしいと思っています。

さて、先月は新中1とその保護者の方対象の「中1勉強法説明会」と、新中3とその保護者の方対象の「高校入試説明会」を開催させていただきました。中3はこの時期部活も活発に行われていますので、例年、説明会途中からの参加の塾生さんもいらっしゃるのですが、今年ありがたいことに全員初めから参加していただきました。お子さんとともにご参加いただきました保護者の皆様、お忙しい中誠にありがとうございました。

どちらの説明会においても共通して訴えさせていただいたのが、“塾に通うことによって真の実力をつけることが第一目標ですが、同時に学校からはできるだけ高い評定をいただけてくることを目指してください”ということでした。評定とはいわゆる通知表の点数で、入試においては内申点となります。それは9教科の合計点のみが評価され、内訳がどうであろうと関係ありません。つまり数学の「5」も保健体育の「5」も価値は同じなのです。この内申点が行きたい高校の基準に大きく届いていなければ、そこに合格するのはまず不可能と言っても過言ではありません。小学校の時の通知表で二重丸が多くても、中学校では「5」や「4」が取れるとはかぎりません。小学校の時の二重丸は、基本的に中学校評定では「3」だと思っていてください。

学校がこの通知表評定を決定するための基準は大変複雑で、しかも時々変更されます。今年、石尾台中学校も高蔵寺中学校も変更がありました。内容については割愛させていただきますが、どのように変わろうともやるべきことはごく当たり前の以下のことです。学ぶ姿勢の基本です。

- ・真面目に勉強に取り組んで、考える力を伸ばし、覚えるべきことはきちんと覚える。
- ・提出物は期限を必ず守り、丁寧な字でよく考えながら書き込む。
- ・授業は集中して聞き、発表は自分の言葉でしっかり伝え、調べ学習にも積極的に取り組む。
- ・副教科にも誠実に意欲的に取り組み、工夫しながら技術の向上を目指す。

これらができていた塾生たちは、たとえ思考力がもう一歩でも、たとえ歌が苦手でも、通知表評定は少なくとも「4」をいただけていました。精一杯の頑張りは実力を伸ばし、その意欲は先生にも伝わるものです。全ての教科に誠実に一生懸命に向き合い、全力を尽くして下さい。